

## メッセージアウトライン マタイの福音書6：25～30 「空の鳥、野の花を見よ」

[25]「ですから、わたしはあなたがたに言います。何を食べようか何を飲もうかと、自分のいのちのことで心配したり、何を着ようかと、自分のからだのことで心配したりするのはやめなさい。いのちは食べ物以上のもの、からだは着る物以上のものではありませんか」

「ですから」とは前の部分を受けてそれをさらに展開し、結論に導いていく箇所である。

前の部分とは、自分のために宝を天に蓄えよ。あなたがたは神と富とに仕えることはできないとの教えであった。→6:19-24

イエス・キリストを自分の救い主と信じる信仰者であっても日々の生活、衣食住、経済的なことは避けて通れない。それでイエスはこれらのことに的を絞って、信仰者はどのように生きるべきかを教えられるのである。多くの人々はこれらの現実的な問題で心配する。「心配する」とは原語では心がいろいろなものに裂かれて乱れることを意味する。では何も心配しないで、将来のために何の準備もしないで毎日を無為に過ごせばよいかといえばそうではない。

主イエスは「いのち」と「からだ」という包括的な表現で人間全体のことを示しておられる。人間は自分でいのちを創造することはできない。結婚して子どもが誕生することは、いのちある者からいのちある者が生まれることであるので、創造ではない。創造は無から有を造り出すことである。同様に人間は自分で自分のからだを造り出すことはできない。自分でこの世に来ようと肉体をもって来た者はいない。神の定められた素晴らしい生殖プログラムによってこの世に肉体をもって母の胎内から生まれて来たのである。

このように自分のいのちもからだも神のすばらしい作品として神が創造して与えてくださったものであり、それらは食べ物、着物以上のものではないか。いのちもからだも私たちのために造ってくださったのならば、ましてそのいのちの維持に必要なものを与えてくださるのは当然ではないか。それゆえそのようなことで心配するのはやめなさいと主は教えられるのである。

[26-27]「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。それでも、あなたがたの天の父は養ってくださいます。あなたがたはその鳥よりも、ずっと価値があるではありませんか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか」

ここでも主は同じ内容を違う表現で繰り返しておられる。空の鳥は種蒔きも刈り入れも倉に納めることもしないけれども、あなたがた信仰者の父である神が彼らを養

っていてくださる。確かにそうであるが、誤解してはならないのは、彼らはただ暇つぶしや物見遊山で飛んでいるのではない。彼らは食物を得るために忙しく飛び回っているのである。そして神は確かにその食物を用意してくださる。地を這う虫、昆虫、木の実、果樹、時には人間が苦勞して作った作物。

そしてその鳥よりも、ずっと価値がある私たち人間もただ仰向けに寝て口を開けていれば父なる神が天から食物を降らしてくれるかといえ、それはとんでもない思い違いである。降ってくるのは鳥の糞ぐらいであろう。私たち人間はその肉体をもって働かなければならない。神はエバが造られる前からアダムにエデンの園を耕させ、また守らせる(神の創造されたものを管理する)という仕事を与えられた。→創世記2:15 働くことは神の与えた呪いではない。別の箇所では聖書は「働きたくない者は食べるな」と教えている。→Ⅱテサロニケ3:10 私たちが農夫であるならば額に汗をして種を蒔き、刈り入れ、収穫して倉庫に入れるという一連の働きが必要である。しかし、蒔いた種を成長させ収穫まで増やすことのできる唯一のお方は神である。別の種類の仕事に従事する者はまた別の方法で糧を得なければならぬが、しかし、そこでも私たちの父なる神が必要なものを用意してくださるのである。

衣食住、その他生活全般についてくよくよ心配し、思い煩っても少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうかと問われているが、答えは当然否である。しかし、思い煩うことによって様々な病気を併発していのちを縮めることはあるかもしれない。

[28-29]「なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも装っていませんでした」

ここで主は野の花に目を向けさせる。ソロモンはイスラエルの歴史上最も富んだ王であった。→Ⅰ列王記10章、Ⅱ歴代誌9章 レバノンの高価な杉材を用いた主の宮と王宮、金や宝石をふんだんに用いて意匠を凝らした内装、巨大で高価な切り石の土台、金と象牙で作られた王座、王の華麗な服装、家来や従者たちの目を見張るような衣服、おびただしい数の全焼のささげ物、そして当時は、銀は価値ある物とはみなされないほどの豊かな経済状況であった。彼の移動には家来たちを従えて、金、銀、紫布で作られた華麗な駕籠に乗り、高価な香料の粉末を煙のようにくゆらせて上って来る。→雅歌3:6-10

ところが、イエスはそのような栄華を極めたソロモン王さえ、この花の一つほどにも装ってはいなかったと言われる。この「花」とはゆり、またはアネモネと言われている。私たちはこのような花の一つをじっくり観察してみる時、その形、色合い、香り、感触、みずみずしさ、華麗さ、可憐さなどには人間がどんなにまねをしようとしても決してまねることのできない本質的な美しさがあることが分かる。この花は働きも紡ぎ

もしないが、神がすばらしく装わせてくださっているのである。神はこの世界が殺風景にならないように季節に応じて咲く花を備えてくださっているのであろう。

私たちも自身のことを省みて、神は私たちのためにどれほど素晴らしい恵みを与えてくださっているかということを覚え、感謝することが大切である。当たり前と思っ  
てはならない。

数えて見よ、主の恵み！

[30]「今日あっても明日は炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこのように装ってくださるのなら、あなたがたには、もっと良くしてくださらないでしょうか。信仰の薄い人たちよ」

花のいのちは短い。とくにイスラエルのような高温で乾燥している地では今日咲いていても、明日には枯れてしまうということは事実である。そしてその枯れてしまった花は地から引き抜かれて、パンなどを焼く炉に投げ入れられる燃料になってしまうのである。そのようなはかない花でも神はソロモン王以上に装ってくださるのだから、ましてあなたがた神を信じる信仰者にそれ以上に良くしてくださらないことがあるだろうかと言われ、彼らを信仰の薄い人たちよと責められるのである。

私たちクリスチャンはイエス・キリストが私たちの罪の身代わりになって、十字架にかかって死んでくださり、私たちの罪を贖ってくださったことを信じる者である。そして信じた私たちはイエス・キリストにあって神の子とされ、神を私たちの父と呼ぶことができる素晴らしい身分を与えられている。

そして他の人から、クリスチャンとは何かと聞かれたら、以上のようなことを答えることができるであろう。しかし、その私たちが私たちのいのちもからだも造ってくださり、すばらしい救いも与えてくださった神の「…あなたがたには、もっと良くしてくださらないでしょうか」という約束を自分のこととして信ぜず、思い煩ってばかりいるならば、私たちも「信仰の薄い人たちよ」と主から責められることになるのではないだろうか。私たちは主の約束、主のみことばを真摯に受け止め、心から信じ、自分に与えられている働きに励み、神の御栄光を表す者となっていきたい。

→ローマ8:32